平成２３年度第２回「大塚初重講座」（生涯学習応援ゼミナール）
「装飾古墳の世界―九州の古墳壁画を語る―」

１１月６日（日）は大塚先生と『虎塚古墳』を見学！

当ＮＰＯ理事長の明治大学名誉教授大塚初重先生による、平成２３年度生涯学習応援ゼミナール「大塚初重講座」の第２回講座を９月２４日に開催しました。

今回のテーマは「装飾古墳の世界―九州の古墳壁画を語る―」です。前回の「東国の装飾古墳」に引き続き、装飾古墳ついて講義をいただきました。昨年度の「壁画古墳の世界ー高松塚、キトラ、そして虎塚」から古墳の壁画についてお話しいただいておりますが、今回のテーマの九州の装飾古墳は、東国の装飾古墳のルーツを探る上で重要な古墳です。

講座では、はじめに大塚先生から九州の装飾古墳の特徴について講義をいただき、その後はケーキを食べ紅茶を飲みながら、大塚先生と参加者が意見交換をする形で進められました。

講義では、１九州の装飾古墳の特色、２装飾古墳の年代と壁画の意味、３壁画古墳を残した人びと　の順番で説明がありました。

具体的には、「装飾古墳」は大正６年に京都大学浜田耕作博士が命名したこと、装飾古墳は全国で約３００基確認されていること、そのほとんどが九州（福岡県南部と熊本県北部）に集中しそのほかに茨城、福島、宮城に多いこと、装飾古墳は６世紀代におおいこと、装飾古墳の分布は特定氏族の影響によるものか、等について先生のエピソードも交えながら説明がありました。

奈良県高松塚古墳とキトラ古墳は、従来の装飾古墳とは画題・画風をはじめ描画技法もまったく異なっている（テーマの九州の装飾古墳とは次元が違う）との先生からの説明もありましたが、参加者からの質問では、それでも竹原古墳と高松塚古墳の壁画は関連があるのではないかといった意見もありました。また、装飾古墳は日本独自のものなのか。近畿地方には九州のような装飾古墳はないようだが、なぜか。さらに、赤や白などの色は、どのような材料で染めたのかといった質問があり、その都度、大塚先生から細かい説明がありました。

次回は１１月６日（日）に大塚先生が調査をされた茨城県の「虎塚古墳」を見学予定です。参加希望者は事務局までご連絡ください。

なお、今年度の「大塚初重講座」は、次回の、虎塚古墳石室の見学で終了の予定でしたが、２月にもう１回開催することとなりました。